

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790200133		
法人名	株式会社 ケアネット		
事業所名	会津サービスセンター グループホームあいづ		
所在地	福島県会津若松市門田町工業団地37-1		
自己評価作成日	平成23年2月14日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.fukushimakenshakyō.or.jp/2000/2701.html
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉ネットワーク		
所在地	いわき市錦町大島2番地		
訪問調査日	平成23年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者様が今までの生活スタイルを出来るだけ継続できるように、「当たり前のことのできるケア」を目指して取り組んでいます ご利用者様一人ひとりにより添った「十人十色の幸せ探し」ができるケアを目指しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>企業の支援を受けているとはいえ、施設・陣容とも余裕を感じさせるものでした。一般の人家から少し離れているので、地域との密着度が気になるところから、事業所・職員が一体となって地域参加型の施設を目指そうと努力している。 時間をかけることによって、この種の福祉施設の理想形が出来ればと期待するところです。</p>

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念を携帯し、一人ひとりが理念に基づいた行動をとっている。 しかし、GH独自の理念が明文化されていなかった為、今後は理念を作成し、それに基づく実践を行えるようにしていく	最近出来上がった新しい理念は、職員の皆さんの意見を取り入れて、実行伴う形にしたものになっている。利用者本位の福祉のあり方を標榜し、安全で楽しく幸せな施設でありたいと努力している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	日常的な交流は、毎日の買い物程度であった。 来年度は地域に出向いて交流を深めていけるように、民生委員や区長に相談し、取り組みを行っている。	大きな商業施設や、一般の民家からは距離があるので、近くの生協に出かけたりするのが地域との唯一の接触機会になるようです。祭りや地域のイベントにも参加すべく努力もしています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方に説明をしたが、まだまだ勉強不足である。 これからどのように行っていくか、課題である。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	事業所の現在の悩みを相談し、行事や地域とどのように関わっていけばよいのかを話し合っている。	地元の区長や包括支援センターの職員を含めた2ヶ月に1度の運営推進会議は、利用者も参加するという実務形のものになっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことがあれば、すぐに担当者へ連絡してアドバイスを頂いている	疑問点があれば行政の担当者から指導を得て、合わせて他の情報についてもやり取りが出来る関係が成り立ってきている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全てが身体拘束をしないケアの理解を深め、ケアを行っている。 見守りの担当を作り、事故が無く自由なケアができるように取り組んでいる。	平均介護度が低いこともあって、身体拘束に関わるケースとしては存在していない。スピーチロック等勉強会を通して、関連するケアについて学ぶ機会を持つようにしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全てが虐待についての理解を深め、日々のケアの中で本人の考えを無視した介護にならないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の講義を受け、理解を深めている。 現在、申し立て中のご利用者もあり、制度を理解したうえで活用できるようにしている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前には、ご利用者・ご家族へ重要事項・契約書の内容を説明し、入所時にも再度説明し、捺印を頂く様にしている。入所後も分からない所などは随時説明を行うようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご利用様とご家族に出席していただき意見を頂いている。 その他、日常的に頂いた意見を反映できるようにGH会議等で話し合いを行っている	面会に来た利用者の家族の方から、その都度、要望を聞くようにしている。利用者からの意見については、職員が聞き取り月1回の職員会議に提出してもらっている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	毎日の申し送り時に気づいた事を随時提案し、対応するようにしている。 月1回のGH会議で問題点を話し合い改善していくようにしている 必要に応じ、センター長の面談を行っている	日常の業務における問題点は、管理者が対処している。センター長も年2回の定点面談等を有効的に試みるべく努力している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務内容の見直し等もGH会議で話し合い、改善につとめている。 3か月に一度、ケアネット全体の問題を話し合い、改善に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修会の参加出来るようにしている。 資格取得についても推進しており、今年度は介護事務講座を全員受講した。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会に入り、研修会に参加している。 会津の他のGHに見学に行く等し、開設前の勉強と助言をいただいたりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にアセスメントを行い、ご利用者の要望や不安を聞き、説明を行っている。入所時にも内部の説明を含め、不安な部分を説明し、入所後も繰り返し説明することで安心していただけるようにしている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時、契約説明時、入所時にご家族の要望や不安を聞き説明を行っている。面会時や電話でも随時話を伺えるようにしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族からよく話を伺い、お互いに相談し合っ、無理のないサービス提供をすすめている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの能力や希望に応じたお手伝いをさせていただく中で、ご利用者様から学ばせていただいたり、楽しみや苦しみを共感しながら生活を共にする関係を築けるよう努力し、職員は成長させて頂いている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話等で現在のご利用者様の状況を理解していただき、ご家族としての支援をお願いすることもある。ご家族・職員が一緒にご利用者様を支えていけるような援助を心がけている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで利用してきた美容室に行くようにしたり、夫の病院への面会や姉宅への訪問など、なじみの場所やなじみの人との関わりを絶やさないようにしている	利用者への来訪者に対しては、部屋にスムーズに通してお茶のサービスをしたり、抵抗感が残らないような雰囲気づくりに努めている。本人の希望があれば、親類縁者を訪ねることもあると言う。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の性格や行動を把握し、ストレスやトラブル無く、楽しく生活できるように見守りや橋渡しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、契約終了のケースが無く、実践経験が無い。今後どのような取り組みをしていくのか課題事項である		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	日常的な関わりの中から、ご利用者様の希望や意向に気づき、記録や申し送りで対応を検討している	キーワードから本人の思いをくみ取り、それを基に、家族との関係を深めて、出来る限り利用者の意向・要望をみたとすように努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや入所時や日々の会話の中で、今までの生活歴等の話を伺い、出来るだけ希望に応じた対応をしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「十人十色の幸せ探し」を考えながら、日常の行動や会話から、一人ひとりの個別ケアができるようにつとめている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて介護計画についての話し合いを定期的に行っている。 また、毎日の申し送りや記録でケアの実践状況やモニタリングを行い、介護計画に生かしている	利用者それぞれに担当者を決めているが、他の担当者との日常的な会話の中から、また利用者本人からの聞きだしによってモニタリングして、それを介護計画に反映させている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に詳細な記録を残す事で、日々の気づきやケアプランの見直しに役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今までのかかりつけ医や美容院等にいけるよう援助し、終末期に夫の面会の希望や不安時の姉宅の訪問など柔軟に対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はまだまだ出ていない。GHの地域資源と今までの地域での地域資源を把握できるようにしていくことが課題である		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いままでのかかりつけ医を大事にし、現状を把握していただくようご家族に受診をお願いしている。 必要に応じてGHでの受診対応も行い、適切な医療を受けられるようにしている。	家族が利用者と掛かりつけ医を受診する時は、日常的な健康に関する状況を、文書にして提供するようにしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良やバイタル異常等あった場合には、職場内の看護職に連絡し、その都度対応していただいている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には状態をご家族に伺ったり、病院に連絡をしたりして状態を把握するようにしている。 病院との関係はまだまだ希薄のため、普段の受診時からコミュニケーションをとるようにしていく		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化などはご家族へ報告し、必要に応じて受診をすすめている。今後予見される状況を報告し将来的な方向性も相談している。 事業所としては、ターミナルケアに対する方針が明確となっていない為、今後勉強会等で話し合いをしていく	重度化のケースに至っていないが、今後自然の流れの延長線上で、職員も家族との話し合いの中で、終末期の問題を明確にしていく時期に来ている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルや救命講習の受講を行っている。今後も定期的に勉強会を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所全体での避難訓練を行っている。来年度はGH独自で2カ月に1度は災害対策を行っているように計画している	今年度は、昼間と夜間を想定して2回の避難誘導訓練を行った。消防署の他、地元消防団の参加を得ることが出来た。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な雰囲気を保ちつつ、言葉を選びながら、プライドを傷つけないような言葉かけをしている	現在は、入所時のアセスメントの中から、職員の頭に入っている分の情報量を基に本人の尊厳を守っている。その後のやり取りの中で、以前の家庭の雰囲気や、新たにわかった性格等を積み増して、言葉使いや対応をするようにしたい	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の訴えはその都度聞くことはもちろん、表情や行動などでも訴えをくみ取れるように相手の気持ちを考えながら対応している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や起床時間等、その日の気分や体調により柔軟な対応ができるように心がけている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の希望に沿って、化粧品や洋服は選んでもらうようにし、化粧品購入希望時には一緒に買いに行ったりしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	買い物や調理や後片付けなどご利用者様にお手伝い頂き、食事でも話が弾むように気を配り、楽しく食事ができるようにしている	食事は、施設のオープンな調理カウンターで作るので、利用者の参加もしやすい状況になっている。現実には、調理の段階から配膳まで手伝ってもらうことがある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	作成した献立は、管理栄養士がチェックし、バランスのとれた食事が取れるようにしている。 水分量も確保できるように、食事の間にもコーヒーやココアなど好みのものを提供している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ・介助を行い、就寝時には義歯の洗浄を行い、口腔内の清潔に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行い、排泄パターンを把握し、失敗なくトイレ誘導行えるように援助している。	利用者のほとんどが布パンツの段階にとどまっている。少数のコントロールが出来ない利用者には、声かけ・トイレ誘導を行うようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックを行い、便秘傾向の方にはヨーグルトをとっていただいたり、腹部マッサージをしたりお茶を飲んでいただいたりと、出来るだけ薬に頼らない自然排便を心がけている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆったりと入浴していただけるような雰囲気作りをする。ご利用者様の気分にあわせて対応ができるように心がけている、	規定の週3回の入浴は午後を設定されているが、抵抗感を示す利用者には、朝・夕にも声かけをして、入浴を促す支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを優先し、ゆっくりを話を伺ったり、温かい飲み物を提供したり、部屋の室温・湿度に配慮したりして、安眠できるように援助している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理表で、一人ひとりの薬について、把握するようにしている。服薬については役割分担を明確にし、間違いにないように、2重3重のチェック態勢で支援している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や希望に合わせて役割を持っていただいている。音楽療法やレク等、その方の楽しめるもの提供している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物には順番に同行していただき、日常的に外出できる機会を設けている。自宅や姉宅への訪問などの外出の援助も行っている。GHの行事として、遠出のドライブなども行っている	花見や紅葉など、季節的なドライブは積極的に行っている。冬場や自然条件の厳しい季節には、天気の良い日を選んで散歩に出かけられるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は、職員で管理をさせていただいているが、買い物や外出時には自分で支払いをしていただいたりしている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室に電話線はない為、携帯電話を使用して、自由に電話を出来るようにしている。その他、希望時に事務所内からかけて頂くようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や台所はなるべく家庭的な雰囲気やコミュニケーションのとれる場所となるようにし、温度湿度にも配慮している。また玄関・浴室・トイレ等は清潔に努め、快適に過ごしていただけるように配慮している	温度・湿度がコントロールされている室内は快適だ。建築・設備的にも環境が整っているため、居心地はすこぶる良い。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方とお話できるようにソファや炬燵を準備し、食事時の座席にも配慮するようにしている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	ご家族の写真やなじみの物や愛用品を持参していただき、その人らしいお部屋になるように支援している。日々の清掃により清潔保持に努め、温度湿度にも配慮して心地よく過ごしていただけるようにしている	10畳の部屋にタンスを含めた入れ物が3箇所も有るので、持ち物はほとんど収納されている。持込みは原則自由なので、仏壇や身内の写真をかざっていたり、さっぱりとしたきれいで清潔な住空間になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを全体的に設置しており、自立を促している。また、オープンキッチンによる見守り可能な作業台がご利用者様のできることを活かしている。		

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホームあいづ

記入担当者名 中林 正枝

評価結果に対する事業所の意見

開所1年目という新しい施設でまだまだ試行錯誤しながら運営していますが、日々の努力が結果に反映されておりとてもうれしく思います。今後、No12の重度化の対応などについて、ご家族・職員とも話をすすめて充実させていけるようにしていきたいと考えております。

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。

目標達成計画

作成日：平成 23年 4月 7日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	ターミナルケアにおける方針が明確となっていない。勉強会などで話し合いをしてターミナルケアにおける理解を深めていく	人の死とは何なのか、死生観やターミナルケアの重要性を理解し、どのように自分たちが関わりを持って行くのかを考える	年に2回、勉強会と話し合いを開催し、目標に向かって具体的対応策を考えていく	24ヶ月
2	34	マニュアルなどはあるが、実践できるか不安が大きい	定期的に急変時のマニュアルを見直し、シュミレーショントレーニングなどを行うことによって、実践力を身につける	年2回、管理者を中心とした実践的な勉強会を行う。 普通救命講習の再受講を行う	12ヶ月
3	3	認知症の理解がまだまだ不足している	地域貢献の前に、職員全員の認知症の理解を深める必要がある	年2回認知症の勉強会を行い、事例等を使用した理論に基づいた介護の知識を身につける ・認知症の家族の会の方の話を聞く機会を設ける ・認知症サポーター養成講座を受講する。	12ヶ月
4	2	日常的な地域との付き合いが少ない	住宅地から離れている為、地域に向く機会をつくり、地域との関係性を深める	運営推進会議での地域との連携などを通じて、地域の行事に参加する ・近隣の小中学校の行事を見学させていただけるようにする	12ヶ月
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

別紙3

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 (該当するものすべてに 印)
1	サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/> 運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="checkbox"/> 利用者へサービス評価について説明した
		<input type="checkbox"/> 利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="checkbox"/> 運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="checkbox"/> その他()
2	自己評価の実施	<input type="checkbox"/> 自己評価を職員全員が実施した
		<input type="checkbox"/> 前回はなし
		<input type="checkbox"/> 前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="checkbox"/> 自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="checkbox"/> 評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
<input type="checkbox"/> その他()		
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="checkbox"/> 普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="checkbox"/> 評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="checkbox"/> 対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="checkbox"/> その他()
		<input type="checkbox"/> 4/20 予定
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="checkbox"/> 運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="checkbox"/> 利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/> 市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="checkbox"/> 5/20 予定
		<input type="checkbox"/> 運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
<input type="checkbox"/> その他()		
5	サービス評価の活用	<input type="checkbox"/> 職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="checkbox"/> 5/2 予定
		<input type="checkbox"/> 「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="checkbox"/> 「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="checkbox"/> 「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
<input type="checkbox"/> その他()		